

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 4 号 )



1 平成2年3月12日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
5 番 岩村 勝弘	6 番 山崎 雅己
7 番 生稲 隆	9 番 山口 康雄
10 番 鈴木 忠夫	11 番 神田 守隆
12 番 榎本 春光	13 番 山中金治郎
14 番 小宮 利夫	15 番 横溝 功
17 番 石井 謀	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 福原 勤
21 番 辻田 実	22 番 黒川 平治
23 番 流山源次郎	25 番 渡辺 昭夫
26 番 近藤 好雄	27 番 林 豊
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 2名

8 番 鈴木 勝美	16 番 石井 昌治
-----------	------------

1 出席説明員

市 長 半澤 良一	助 役 小倉 澄男
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総 務 部 長 渡辺 秀夫	民生部長 小幡 清之
経 済 部 長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教 育 委 員 会 長 福原 修	

1 出席事務局職員

事 務 局 長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

# 1 議事日程（第4号）

平成2年3月12日午前10時開議

日程第1 議案第 8号 平成元年度館山市一般会計補正予算（第5号）  
の専決処分の承認について

議案第 9号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償  
に関する条例の一部を改正する条例の制定につ  
いて

議案第10号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関す  
る条例の一部を改正する条例の制定について

議案第11号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する  
条例の一部を改正する条例の制定について

議案第12号 館山市ふるさと創生奨学基金条例の一部を改正  
する条例の制定について

議案第13号 財産の無償譲渡について

議案第14号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一  
部を改正する条例の制定について

日程第2

議案第15号 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一  
部を改正する条例の制定について

議案第16号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一  
部を改正する条例の制定について

議案第17号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定  
について

議案第18号 館山市竹原及び二子治山事業分担金徴収条例の  
制定について

議案第19号 館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制  
定について

議案第20号 市道路線の認定、廃止及び変更について

議案第21号 平成元年度館山市一般会計補正予算（第6号）

議案第22号 平成元年度館山市国民健康保険特別会計補正予

- |      |   |                                       |
|------|---|---------------------------------------|
|      |   | 算（第3号）                                |
| 日程第3 | { | 議案第23号 平成元年度館山市老人保健特別会計補正予算（第3号）      |
|      |   | 議案第24号 平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第2号）    |
| 日程第4 | { | 請願第25号 原爆被害者援護法即時制定の促進決議・意見書採択に関する請願書 |
|      |   | 請願第26号 館山市立房南中学校校舎新築に関する請願書           |

開 議 午前10時03分

◎議長（林 豊君） 本日の出席議員数23名、これより第1回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

#### 議案の上程

◎議長（林 豊君） 日程第1、議案第8号平成元年度館山市一般会計補正予算（第5号）の専決処分の承認についてを議題といたします。

#### 質疑応答

◎議長（林 豊君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。

11番。

◎11番（神田守隆君） 衆議院議員選挙に関しては、今度は郵便による投票用紙の配付という形でやり方を変えたということがあったと思うんですが、新しいやり方ということで、従来は投票の入場券とそれから広報ですか、一緒に配るというような形でやられたわけですが、新しいやり方にしていろいろ問題点や何かなかったかどうか、この辺についてどういうふうにお考えになっているか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 実は、今まではなかなか職員で配っていたものですから、選挙余り近くなってやはり入場券がないというようなことの不満等もございましたものですから、今回改めまして2月の6日だったかちょっとあれだったのですが発送しまして、ほとんど返ってくるというようなことなく——50通ほども返りませんと思います。そう記憶しています。非常によかったなということで、またそのために不在者投票や何かの関係も物すごい上がっているという実情でございまして、今後も引き続き投票——入場券でございしますが、郵送でやっていきたいと思っています。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 11番さん、よろしゅうございますか。

◎11番（神田守隆君） 終わります。

◎議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

#### 討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

#### 議案の上程

◎議長(林 豊君) 日程第2、議案第9号乃至議案第20号の各議案を一括して議題といたします。

#### 質疑応答

◎議長(林 豊君) これより質疑を行います。

通告がございますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(11番議員神田守隆君登壇)

◎11番(神田守隆君) 既に通告いたしました点についてお尋ねをいたします。まず、議案の第9号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、また議案第10号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねをいたします。

議案説明資料の5ページによりますと、議長が36万4,000円から37万5,000円に、副議長が32万9,000円を33万9,000円に、議員30万7,000円を31万6,000円にそれぞれ引き上げようとするものでありますが、いずれも約3%程度の引き上げということになっております。提案説明によりますと、「一般職の給与改定、県内各市との均衡、過去の改定経緯等を考慮して」とありますが、この引き上げ理由について御説明をいただきたいと思います。

他市との均衡と言いますが、比較するとどのようになっておると考えておりますか。議員報酬については、市の規模によって報酬が大体決まる傾向があるわけでありましてけれども、館山市の比較対象にしている市との比較でどうですか、お聞かせいただきたいと思います。

また、地方交付税の基準財政需要額の算定単価では、議長、副議長、議員の報酬は幾らになっておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

さらに、議員報酬の額については、市民の納得できる額である必要があると思うわけでありますけれども、報酬審議会における審議の結果についてはすべての委員が全会一致ということで出した結論であったかどうか、そしてまた審議の中でどのような意見が出されたのか、お聞かせをいただきたいと思います。同様に、市長の給与についても御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の第15号でございます。館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。月 4,400円の保育料を 4,700円に、入園料は 7,200円を 8,000円にそれぞれ値上げしようとするものでありますけれども、提案説明では国の基準に合わせて値上げすることとありますが、この国の基準とは何を指すものでありますか、値上げの理由について御説明いただきたいと思うのであります。

また、安房郡市の中で館山市は特別に幼稚園保育料は高くなっているわけでありますけれども、近隣町村の動向はどうなっておりますか、また県内他市の動向についても御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第9号及び10号についての御質問でございますが、まず引き上げの理由は何かという御質問でございますが、第1点目といたしましては御承知のように現行額は昨年4月に改定されたわけでございますが、その後一般職につきましては12月議会におきまして勧告に基づく2.89%が議決され、4月にさかのぼって改定されたこと、2点目としてこれまでの審議会におきまして改定を据え置くことによって上げ幅が大きくなるので、一般職の給与改定に伴って改定すべきとの御意見があったこと、3点目として県内各市でも同様改定の動きがあったこと、また4点目として各地方公共団体における特別職及び一般職の職員の給与の状況、他の地方公共団体との均衡、国家公務員の



特別職の職員の給与改定を考慮すべきとの自治省の指導があること、以上申し上げましたことが引き上げの基本的な考え方でございます。

次に、他市との比較はどうかという御質問でございますが、県内28市で比較いたしますと、議長の平均額は45万 1,000円余で本市は37万 5,000円、副議長40万 9,000円余に対しまして33万 9,000円、議員38万 1,000円余に対しまして31万 6,000円。三役は、市長が平均額80万円余に対しまして76万円、助役76万 6,000円余に対しまして64万 5,000円、収入役は61万 4,000円余に対しまして60万 2,000円となっております。

次に、報酬審議会ではどのような意見が出たかとの御質問でございますが、全体的な意見を集約いたしますと改定時期は適当であり、また改定額につきましては額そのものが高いとかあるいは低いとかということよりも、それぞれの立場で十分に活動されるようお願いしたいということでございます。

次に、地方交付税算定単価はどうかという御質問でございますが、議長が月額27万円、副議長24万円、議員23万 2,000円となっております。また三役は、市長が57万 2,000円、助役が44万 5,000円、収入役が41万 5,000円となっております。

議案第15号の質問につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

答弁終わります。

◎議長（林 豊君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 幼稚園の保育料等の値上げについてでございますが、公立幼稚園運営のための保育料及び入園料につきましては、従来から国の基準に合わせて改正してまいりました。現行保育料 4,400円は昭和61年度、入園料 7,200円は昭和63年度に改定しておりますが、地方交付税算定基準が平成元年度から改定されましたので、1年おくれの平成2年度から保育料を 4,700円に、入園料を 8,000円にそれぞれ改定をお願いしたいと考えております。

次に、近隣町村及び他市の動向はどうかとの御質問でございますが、近隣町村では平成2年度においては改定予定はなしとのことでございます。また、

他市におきましては2市、野田市及び東金市が保育料の改定を予定しているとのことでございます。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 市長の給与等の — 特別職の給与の改定の問題でありますけれども、県内他市との比較では館山は低いという — 今の数字からうかがえるんでありますけれども、この議員報酬あるいは市長給与、特に議員報酬に関しては市町村の規模、これによって大体決まる傾向があらうかと思うんですが、館山市と同程度の規模の — 人口の規模ということでとりあえずいいと思いますが、その辺の自治体、市の動向についてもう少しお話をいただけたらと思います。

それと、地方交付税の算定基準ですと大変低いです。市長の給与にしても議員の報酬にいたしましても大変低くなっているわけで、逆に言えば市が今回改定案で出してくるものは地方交付税の算定基準よりも大変高いという問題を持っているんですけれども、これについてどのようにお考えになっておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、幼稚園保育料及び入園料徴収条例の関係であります。新年度に当たっては近隣町村では値上げの動きはないと。それからまた、県内では2市で値上げの動きがある、こういう説明で、県内で幼稚園保育料、入園料に関しては値上げの動きはそれほどないと。ないわけじゃないけどもわずかなだ、こういうのが状況だと思うんです。

それで、私は基準財政需要額の算定単価 — 基準財政収入額の算定単価にスライドさせてこの値上げをしていくということについては、たびたび値上げようということになりかねないんじゃないかと。今回の場合に関しても、前は61年保育料、そして入園料については63年ということですから、すると入園料に関して言いますと1年あけてということでしょうちゅう値上げをするということになるわけで、国の動向が算定単価を長期にわたって据え置いてくればそういうふうにならないんでしょうけれども、どうもそういうふうにはいかないんじゃないかという気がするものですから、そうたびたび

値上げをするというのはやはりどうしたものかと思うんです。これは市民の負担という問題から考えた場合に、負担の均衡という点からしても好ましいことではないのではないかというふうに思うんです。その点についてどのようにお考えになっておるか、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） じゃ、神田議員にお答えいたしますけども、同規模ということで大体人口とかいろいろありますが、例としましては富津市、それから茂原市、佐原市とありますが、ちなみに富津市はやはり今回改正して、特定なものだけ言いますと市長が83万円になるということでございます。成田市が市長が80万、それから佐原市が73万でございますが、これは恐らく近々改定するのではないかなというところでございます。大体あとは同じような感じでなりますものですから改定する予定でございますが、近隣にしても同規模あたりにしても、ほとんど私の方が高い、抜きに出るというようなことはございません。ひとつその辺は御理解いただきたいと思います。

（「議員はないですか」と呼ぶ者あり）

◎総務部長（渡辺秀夫君） 議員もほとんど同じですけども、議員は富津市が今度は議長さんが48万になるわけです。茂原市が39万、佐原市が34万ということで、ほとんどそうあれしてもえらい高いなという感じはございませんものですから、この辺を御理解いただきたいと思います。

それと、2番目の交付税と言っていたんですか、交付税についてはほとんど大体交付税のあれよりもどこでも大体高くなっております。その辺はやはり多少基準財政需要額の算定のあれでございますから、それよりは多くなっているというのが実情でございます。

それから、じゃ教育長の方も引き続き答えさせていただきますと……

（「いいです」と呼ぶ者あり）

◎総務部長（渡辺秀夫君） いいですか。方針ですから私がやります。じゃ教育長さん方針ですから……私がやりましょうか。じゃ引き続き答えさせていただきます。

神田議員がおっしゃられるように、毎年上がるんじゃないかということも、

事実物価、そういうもの、経済成長もございますし、当然需要額の中での算定は上がらざるを得ないと思うんです。全く経済が全然成長もしないというようなこと、人件費も上がりません、何も上がりませんということであれば値上げするあれはないと思いますが、多少はやはり受益者負担の原則もございますし、そういう面でやはりやむを得ないんじゃないかと思います。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） よろしゅうございますか。

◎11番（神田守隆君） 終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次に、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 通告をいたしました3点について御質問を申し上げます。

まず、最初に議案第13号財産の無償譲渡について御質問をいたします。この問題につきましては、これまでも質疑をしてきたわけでございますけれども、改めてその後の経過等も含めまして御質問をいたしたいと思うのでございます。これまでも青年館の無償譲渡を行ってきたわけでございますけれども、その実績とその後の経過についてどのようになっておるかという関連において、4点ほど質問をいたしたいと思うのでございます。

一つは、今回神余、二子、相浜、佐野の4館が譲渡されるわけでございするけれども、この議案書を見ますと譲渡の相手方がそれぞれ神余区、二子区、相浜区、佐野区というふうになっておりますけれども、現在の法律からまいりますと、これは家屋の譲渡につきましては登記という制度がございするからだれにするかと。この場合、登記の相手方の場合には人格を持った個人または法人でなければ受けられないわけでございまして、この神余区とか二子区というのは法人格を有していないと思うわけでございするので、こうした扱いがどのようになっておるのか、だれの名義でもって譲渡になるのか、この点について教えていただきたいと思います。

2番目に、その登記でございするけれども、この4館についてはいつの

時点で — 前の質問と同じですけど、だれにこの登記がなされるのか、その点についてお伺いをしたいと。今まで十何館というのが無償譲渡されているわけでございますけれども、これはそれぞれ登記は完了しておるのかどうなのか、その場合に個人なのか、法人なのか、共同なのか、この三つの分類に分けてひとつ状況を教えていただきたいと思いますのでございます。

3番目に、当然不動産でございますから固定資産税というものがかかってくるわけでございますけれども、今まで譲渡された青年館等については個人の名義にほとんどなっておるだろうというふうに思います。そうなってくると、その個人に対して固定資産税というものがかかるんじゃないかと思うんですけども、その点についてはかかっておるのかどうなのか、個人名でもって措置されておるのかどうなのか、その点についてが一つ。と同時に、無償譲渡であっても — 金額が少ないから問題はないかと思うんですけど、取得税というのがあるんですけども、この対象になるのかならないのか、あくまでも個人の取得という形になると思いますので、この取得税というものが今回の4館についてかかるのかかからないのか、過去の青年館の譲渡についてかかったものがあるのかなないのか、この点についてお伺いをしたいと思いますわけです。

4番目に、私の方の青年館は大体区長の名義になっているわけでございますけれども、区長というのは大体何年かするとかわるのが常合いでございます。極端なところになりますと1年か2年ぐらいでもって交代するところもあるわけでございますけど、こうした場合にいろいろと問題が起きるんじゃないかと。その都度名義を変えていかなきゃならないということ今の登記でいきますとなかなか面倒であるわけでございますけれども、その問題はどようになっておるのか。それは内部的には区長やめても名義をそのままずっと存続する、こういうことになると思います。うちの方の青年館もそのようになっていますので、それはそれでいいと思いますけれども、その状況どうなのか。

そして、区長が交代してそのまんまになっているときに万が一死亡したような場合、これは公的なあれを要しませんので、そこの子供等が — 相続人

が自分の財産だからということで処分したり、銀行の担保に入れたりしてしまったというようなことができた場合に、法的に対抗できないというような問題も起きるわけでございますけども、このような問題についてはどのように対処されておるのか、そのような状況というのはどのように展望されるのか、今までの経過もありますし、今後せっかく無償譲渡したわけでございますから、無償譲渡という中で起きてくるこうした問題について把握をしたいと思うわけでございますので、その点についてひとつ御説明をいただきたいと思います。

それから、2番目に議案第14号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。この件につきましては、再三私はこの議場でもって質問をし、また要望もしてきたところでございまして、小学校の教頭先生が公民館の書記を兼務するということについては教育上いかなものかということについて質問をし、またそういう状況はできるだけ解消してもらいたいという要望でございしますから、今回は施政方針を見ますとそうした意味でもって専任書記の配置ということが打ち出され、そしてそれに対するところの予算も 850万円が計上されたわけでございまして、非常に喜ばしいことでございますし、私も感謝を申し上げる次第でございます。

そこでもって、3点ほど質問をいたしたいと思うわけでございますけども、今回の議案はこの教育兼務職員の給与の引き上げが他の特別職の職員と同じようにベースアップになっているわけでございます。これはどういうことなのかということでございます。そして、予算的にも昨年の予算とことしの予算と同じになっておりますから、専任書記と兼務書記の違いはどこにあるのか。私は、この場合に専任書記が生まれればもう兼務書記は要らないんじゃないか、そうすればここでもって値上げというようなことをせずにこの条例というのは撤廃してもいいんじゃないかというふうに思うわけなんですけれども、この点についてはどのように考えておるのか、その点をお伺いしたいわけでございます。

2番目に、本年度は予算的、方針的に見ていきますと、その専任書記と

兼務書記というのが同時に配置されるような形になっているわけでございます。そういうことだろうからここでもって兼務職員の報酬の引き上げということも行ったわけだというふうに思うわけでございますけれども、となってくるとこの専任書記と兼務書記の職務内容の違いはどういうものがあるのか、この点についてわかりやすいように簡単に教えていただきたいというふうに思います。

同時に、3番目にはその専任書記と兼務書記の両方を配置しなきゃならないというような予算的な措置、それから条例的な措置というものがなされなきゃならないということについてはこうした必要性がなぜあるのか、この点についてお伺いしたいと。ひとつよろしく御答弁のほどをお願いします。

それから、3番目には議案第19号館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について御質問申し上げます。今回城山に立派な茶室ができるということでもってその前評判も非常に高いわけでございまして、この点についてはまた同時に市民の中におきましては今のような館山の財政状況の中でもってあれだけ豪華なものをつくるのがいいのかどうなのか、もうちょっと予算の執行、その他については十分議会においては配慮してもらいたい、こういうような意見もあります。これらにつきましてはいろいろと選択の問題でございしますから、私がどちらがいいというふうには申しません。私自身の意見につきましては、この種の建物をするんだったら経済的な活力を生む事業に予算を組むべきじゃないかということは、この予算も通過するときに反対をしたわけでございしますから、それはそれでほかの議員の賛同を得てできたわけでございしますから、これは喜ばしいことだというふうに思います。

そこでもって、今回この条例ができるわけでございしますけど、この条例について条例そのものに私は若干の不備というんですか、扱いの手違いがあるんじゃないかというふうに思うので、そうした観点から8点にわたりまして御質問を申し上げたいと思います。

一つは、この茶室の使用対象はどのように考えておるのか。茶室をつくったわけですから、どのような人たちにどのような形でもって使用させていき

たいか、そうすれば年間どのぐらいの利用者が見込めるのかということは当然あるわけでございまして、これをどのように考えておるのかまず伺いたい。

2 番目には、公園施設そのものについては無料が原則であったわけでございますけれども、今回有料公園施設というふうにした理由と事情について教えていただきたい。有料公園施設とした理由について教えていただきたい。

3 番目には、7 条の 3、3 号に営利を目的で使用するおそれがあるときにはこれを使用させないというふうにあるわけでございますけれども、この営利を目的というのはどういうことなのか、この点について教えていただきたい。ここの茶室の使用について営利を目的としないということになってくると、かなり城山公園全体の運営状況からいってバランスを崩すんじゃないかというふうに思うのもって、特にこの営利というのはどういうことなのか、その範囲、対象、そういうものを教えていただきたい。

4 番目には、公園条例の第 4 条には — これと関連しますけれども、行商、出店、興行、展示会等を有料でもって許可することになっているんです、公園条例そのものには。行商、出店、興行、展示会等々を有料でもって貸し出すということになっているんです。なぜこの茶室だけは営利を目的で使用する者については貸さないというふうになるのか、ちょっとこの点について条例の中の矛盾というものがちょっと激しいんじゃないかというふうに判断できるわけでございますけれども、この点について、この 4 条とのかかわりについてどのように考えておるのか、教えていただきたい。

5 番目には、端的にいってお茶というものは千利休の生み出した非常に伝統のあるものでございます。私も過日金沢市に伺った際、黒川議員と一緒にこの千利休の映画を見まして非常に感動したわけでございまして、非常に日本文化の高い、精神文化のすばらしいものだということを理解してきたところでございまして、お茶に対しては非常な関心も持っているわけでございますけれども、大体このお茶というのはこの千利休を中心にしたところのいろんな流派が — 表千家だとか、裏千家だとか、何とかそういう流派があって、その流派の人たちによって普及されていると。そのお茶の流派に入って



いない人というのは、なかかなお茶を習うという機会がない。特別な学校においては — 高等学校等についてはお茶の授業等があるところもありますけど、非常に少ない。ということになりますと、このお茶というのは一つの作法がございしますから、お茶を使う場合にその作法を全く知らない人がお茶を飲むということについては抵抗も感じますし、やっていけないということはありませんけども、私もいろいろな立派な先生に招待されましてお茶を飲んだこともございしますので、作法は知らなくても何とかその場はしのげるし、また非常にいいものでございしますからそうとは言い切れないんですけど、大体がこのお茶をやっているグループ、この人たちによってお茶というのは支えられておるといのが現状でございします。

これを要するに今回は茶室をつくって市民的レベルまで上げようということとでございしますから、この市長さんの発想というのは非常にすばらしいし、私は館山の人が茶人になるということは、これは日本人としてこの精神文化のすばらしいことを持つことでもって結構なんですけれども、ここでもって問題になるのはお茶の先生という — システムというのはお茶の先生がいて弟子さんがいると。それには授業料払うということとでありますから、このお茶の先生とお茶をやっている人というのは塾というんですか、営業というふうに認めざるを得なくて、これらのものについては、やるということについては営業だからできない、こういうことになるわけでございしますけど、端的にいつて今回の場合そういう問題が出てくるのかどうなのか。いろんな茶道 — 裏千家だとか、表千家、武者小路千家とかいろいろあります。こういう人たちの会派というか、そういう流派の人たちが — 先生とその弟子さんがお茶会をやるというような使用するという場合に使えるのか使えないのか、教えていただきたい。

この点については — 6 番目に移りますけど、現在公民館、それから婦人館、それから勤労福祉センター等におきましては、この今回提案した条例と全く同じ条例が制定されているんです。すなわちこの茶室というのはその公民館と全く同じ制限規定を持ってやるということとでございしますけれども、現在コミュニティセンターにある茶室は非常に立派なものでございしますけ

れども、その茶道連盟の人等が — その人たちのグループで使うということについては禁止されているそうでございます。私んどこへも何回もそういう問い合わせがありまして、館の方に聞いてみますとそれは一応営業であるから公民館活動の中じゃ認められないということでもって、現在それらの人たちについては使うことはできません。使われておりません。したがって、城山も同じ条文でございますから、同じような結果になるんじゃないかということになってくると、公園の中にあるところの茶室と公民館とは、コミュニティセンターの公民館のその茶室とはおのずから性格が違うだろうと思うので、この条文をそのままそっくりここに持ってくるということについて、私は非常に問題が起きてくるというふうに判断をせざるを得ない。

したがって、コミュニティセンターにある茶室というのは、文化祭とか、それから市の茶道教室とか、市が主催するなり、そういう文化団体で主催して講師として呼んでやる場合いいんですけども、独自でやるということは使えないということになってくる、そういう状況でございますからコミセンの茶室というのは非常にお茶として使う機会が年間の間少ない。文化祭とそのほかの市で催す茶道教室で使う以外はほとんど使われていないと。私は、西ドイツの人だとかアメリカの人来たときにあそこの茶室を使って接待しておることありますけれども、その程度のぐらいのもので、一般市民は大体そういうことでもってなかなか使い切れないという、こういうことであっていいのかどうか、これについてはやはり私はこの条文の扱いについてちょっと考えをしていけないといけないんじゃないかというふうに考えるわけでございます

第7番目に、私は今度の茶室については市民センター、それから市の弓道場、さらには市の体育館とか、運動場、プール、こういうものと私は同じ性質のものだというふうに思います、扱いがこの茶室というのは。これらの市民センターとか、弓道場とか、体育施設については、営利目的云々というのは書いていないんです。営利でもできるんです、いろんなもの。例えば、スポーツ少年団の中において道場を開いている人たちが、この野球場なりプール、その他も使えるんです。そうすると、この公民館だけはそれで使えませ

ん。同じ条文が適用されますとこの茶室は使えないと。なぜ市民センターや弓道場や体育施設、プールだとか、体育館とか、そういうものと区別してこういう制限をしなきゃならないかという理由、これは4条との兼ね合いと——ほかのものは全部できるんです。興行も展示会も出店も何でもできておりながら、ここだけはそういう制限をしなきゃいけないということについては、やはりこの条例をつくるときに何かの錯覚なり、公民館のものを当てはめればよいというような形の中でもって私は条文的整理上このようにしたんじゃないかと。となってくると、この条文というのは非常に後でもって支障を来すというように思うわけでございます。

8番目には、この7条の3、3号の中に市長が適当でないと認めるときはこれを使用させることはできないということでありますから、したがってこの条文はこれだけあれば——別に営利が云々ということは必要ない。公園施設は全部営利ができるんです。興行も何もかもできるんです。なぜ茶室だけができないというふうにここで厳しくしていかなきゃならないかと。4条と7条の3というのは非常に大きな矛盾を持つ条例になりはしませんか。私は、この点について質問するわけでございます。

それから9番目には、この条例については茶室以外の使用は規制されておられません。だから、したがって詩吟をやるとかほかの目的でもってあそこを借りるといった場合には、これは貸すということを原則にしておるのかどうか、茶の利用以外に使用についてはどのようになっておるのか、この点についてお伺いしたい。

以上、9点にわたりまして、非常にこれは切実な問題であろうし、条例の問題とも関連いたしますので、細かくなりましたけれども、ひとつ御明快な御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

青年館の無償譲渡についての御質問でございますが、無償譲渡の相手方は地元町内会または区でございますが、町内会または区につきましては法人格

がございませんので、登記名義人は町内会長さんまたは区長さんを含む二、三名になっているのが現状でございます。

また、譲渡の時期は、議決をいただきました後にいたします。

また、将来所有権等の問題が起きないように町内会または区の総会資料等に財産目録として登載し、広く住民に知らせるよう指導しておりますが、今までのところこれにつきましのトラブルはございません。

なお、不動産取得税につきましては、町内会または区の世帯数で案分するということですので、免税点以下になり、非課税となっております。固定資産税は、減免をいたしております。

さらにまた、名義変更につきましては、本年度で3年目でございますので、いまだそうした事実はないように伺っております。

議案第14号につきましては、教育長から御答弁をいたします。

次に、議案第19号都市公園条例についての御質問でございますが、この茶室は茶道を愛好する市民に広く一般に開放するものでございまして、料金を徴収するのは受益者負担の原則に乗っ取るものでございます。

営利を目的として使用する場合というのは、茶器等の展示、宣伝、販売行為を伴うもの及び授業料等を徴して定期的に反復継続して使用するものを考えておりまして、一般の利用に支障の生じないよう配慮したものでございます。

また、家元等が教室とは切り離して定期的ではなく催す茶会につきましては、弾力的に対応したいと考えております。

また、茶会以外の利用につきましても、句会、短歌会等の文化的、教養的な催し物等については、一定の条件のもとに利用していただくよう考えております。

なお、利用につきましては、先ほど申し上げましたように一般の茶道愛好者はもちろん学校関係等の茶道部等が利用しやすい環境づくりを考え、関係者の御協力を得ながら本施設が有効に活用されるよう図ってまいりたいと思っております。

以上、答弁終わります。

◎議長（林 豊君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 議案第14号の教育兼務職員の問題でございますが、地区公民館の職員につきましては提案されております新年度の――平成2年度の予算案が通過したならば、臨時職員を地区公民館に雇用しまして書記業務に充てる予定でございます。したがって、今までの教育兼務書記は本年度末をもって退任していただく予定になっております。

御質問の兼務書記は手当等におきましては必要ないんじゃないか、撤廃したらどうかというような御質問でございますけれども、地区公民館は10館ございまして、また急な配置でございますので、全員各公民館に専任書記が配置されるとははっきり申し上げられない点もございまして、もしそういうような、そういうことがあってはいけないんでございますけれども、そういうことがあった場合において、また必要に迫られて教頭さんに書記をお願いするということもあり得るんじゃないかということ等考えまして撤廃はいたしませんでございまして、それから専任書記と兼務書記との違いはどうかというような御質問でございますが、当然専任書記の職務は前よりも、教頭さんの書記よりもはるかに範囲が広く、また内容も深みが出てまいりまして、非常に公民館の活動を促進するためには以前よりは十分公民館の利用度はふえてくるだろうと思えますし、また公民館の活動も活発になってくるだろう、このように確信しております。

両方同時に配置しておく必要ないんじゃないかというような御質問でございますけれども、この辺につきましては現在のところ両方の存在を認めながら公民館の活動を考えていきたい、このように考えております。そして、もし専任書記が定着してまいりましたならば、兼務書記の兼務はまた検討に値するんじゃないかということも考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 13号につきましては了承いたしました。そういうことでございますれば、ひとつ今後ともやはり青年館の場合には地域生かす

という形の中で扱っていただければ非常に結構だろうと思うし、免税措置等もとられておるということでございますから、了解いたしました。

議案第14号、この兼務職員の件でございますけども、これは扱いについて私非常に難しいと思います。したがいまして、今教育長が答弁されたということは御理解いたします。当然そうなるかと思えます。しかしながら、私は施政方針の目玉として公民館に専任書記を全部配置いたしますということで850万、年間にいたしまして1人については約80万近くになるわけでございますから、単純に10館を割っていきまるとその近くになるんでしょうから、そう今までのケースからいくと安いというわけじゃございませんから、これだけのものを配置するということはやっぱり千葉県下の中においてこの社会教育団体としても非常にビックなニュースになるかというふうに思うわけでございますので、こう進んでもらいたい。これはやはり予算が組んでありますから、私はどちらかというと消極的になるよりも絶対的に配置してもらおうということで、教育兼務職員はもうしないというぐらいで私は臨んでいいんじゃないか、そういう性質のものじゃないかと。予算も組んでいるわけですから、そういう方向でもって臨んでもらいたいということなんですけれども、暫定的にそれできなかった場合には兼務職員でいくということになるかと思えますけれども、そうすると兼務職員でいった場合には兼務職員というのは4万円でございます。20分の1になるわけです、その手当が。手当でもって計算するわけじゃございませんけども、資本主義社会でございます。年間80万近くの手当をもらっている専任書記と年間4万円しかもらわない兼務書記では、その公民館の運営についてはかなり支障も出てくるんじゃないかと。兼務だからいいというようなことでしょうけども、その配置されない地域の住民にしてみれば非常に残念なことで、予算がありながらなぜこういうことになるんだ、こういうことになるかというふうに思うわけでございますけど、その点についてはどのように考えるのかひとつ教えていただきたい。

それから、議案19号でございますけれども、これは私今市長がおっしゃられた点でもって内容的にはほぼ了解いたします。茶道愛好者の人を対象に

して行うということでございますから、茶道愛好者というのは大体もう99%と言っていいぐらい茶道関係の何というんですか、塾というんですか、師匠に習っていると。そこには月謝を払う、こういうこと。この月謝については、私は見方が――公民館の方と何回か私は頼まれてやってやり合ったんですけど、月謝は月謝だというんです。だけど、私はスポーツ関係だとかいろんな団体でもってその団費というような形で月謝と同じぐらい払っているところのスポーツ少年団なり、ほかの社会教育団体いっぱいあるんです。私も体育団体入っていますけども、野球だとか、剣道だとか、何かそういうところもみんな団費というんですか、会費というものはかなり高いもの納めていてやっているんです。ここではしかしながら性格的には会費であって授業料じゃないと。それから、お花だとかお茶の先生というのは全部教えるのはこれ授業料であって、これはもう全部だめだ、これはもう商売だ、営利だ、こういう格好になっていると。何かそれ非常におかしい。営利だということになってくると、それじゃそのお茶なり華道というのが今度県なり国へ行きますと日本を代表しておる文化であるということでもっていろんな外交なり、そういう形の接待なり、いろいろその誇りとして扱われる。

こういう格好でもって非常に不自然であるわけでございます、この点について市長はお茶会でもそれを何というんですか、茶道の練習なり、それ教授するために使われるのはぐあい悪いけれども、お茶会とか不定期にやるお茶の何か総習いとかいろんなそういうのがあるようでございますけど、初釜とかそういうのがあるんだそうでございますけども、そういう場合に使うには私は営利とか何かそういうものとはかなり違うんじゃないかというふうに――主体はそのお茶の先生と弟子さんになろうかと思えますけれども、そういう初がまだとか、それからいろんなお茶会とか、そういうものも私もいろんなところへ招待されて出ることもかなり多いわけでございますけども、一般の来賓等も入って行って、そういう機会にのみ私はお茶というものについて接して、お茶の極意というものを多少なりとも味わっているということでございますけれども、そういう点であればこのことを規制するんで営利ということになるんじゃないかというふうに思うわけでございます、この

第4条の中において規定されている条文でもってこの条文を入れることないと。特に、7条の3の3というのはもう4条と重複します、ほとんど。全部その内容というのはその中でもって理解できるだけなんです。ですから、この7条の2乃至3というのは入れることない。4条の中で規定していつて、そして10条のものでもって別表の1もその2、3というのをつけ加えなくても私はあえていいと思うんです。ほかのところはこういうふうにつけ加えているところはございませんです。

それで、これをつけ加えるんだったら博物館と同じ扱いにしてもらいたい。博物館は博物館設置法によって——博物館の運営規則といっても料金規則あります。城山の公園の中にあつて城山の城は何で別に条例を独立させてつuckingおつて、同じ城の中におけるところの茶室は公園の一部の施設として、なおしかも公園とは全く別な公民館扱いにしなければならぬのかと。この点は、私は何か非常に現実とこの法文とは食い違いがあると。もう私はさっき市長さんが言われたとおりでもって運営上はいいと思う。茶会とかその他のそういったものについては、初がまとかそういうような不定期のものについて愛好者が使う分にはいいだろうと。それから、一定の条件のもとでもって他の団体、そういったものについて使っていくということでございますから、これは7条3の5というところに書いてあります。4条の中にも市長が認めたものについてはよろしい、こういうふうに書いてありますから、これ同じ条文が7条と4条というもので重複するわけでございますから、ここで独立させる必要ないというふうに思うわけでございまして、この条文はそういう面でもって非常に無理があるというふうに考えます。

それから、もう一点ここでもって明確にしてもらいたいのは、公民館やそれから勤労青少年ホームと同じ文面ですよ、営利を目的としちゃならないというので。そうすると、コミセンの方の茶室は使えなくて、同じ条文でもって片一方の方は使えるという条文というのはおかしいんじゃないかというふうに思いますよ、それは。これはやはり市の条例ですから同じように——城山の方は公園の中にあるから同じ文面であってもこれはいいんだと。向こうのコミセンの方にあるのは同じ文面であってもこれはだめなんだ、こういう



取り扱いということは私は条例としては余り適切じゃないと。どうしてもそうするんだということであつたら、あの城山の博物館の入場料と同じように新しい条例を独立させてやるべきだ、公園法の中に無理に入れる必要ないんじゃないか、このように思う。無理に入れても、私は4条の中に追加し、10条の別表の中に有料施設としてその料金を入れれば、体育施設の料金と同じように私は体育施設の使用条例と同じ条例の扱いでもって整理できるんですけど、ここでもって中途半端というと非常に語弊がありますけども、こういう形でもって入れることによってむしろ混乱を招くと。明らかに混乱になると思う。

特に、公園条例については不備が多過ぎます。したがいまして、今回何十カ所も字句の訂正をしているじゃありませんか。これつくるときにこの点が指摘できなかったわけです。指摘できないでもってこの点に間違いありませんと言うけども、こんなに間違いが出てきて字句の訂正をしなきゃならないということでございますから、今回の問題はそういう面でもって私が将来訂正しなくてもいいようにあらかじめ執行部において——これから委員会等でもって審議されると思うので、こころ辺のものは整理して、場合によれば条文の修正、その他を行うべきじゃないかというふうに判断しますが、この点について再度質問いたしますので、わかりやすい御答弁をお願いしたいと思います。

◎議長（林 豊君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 地区公民館の専任書記の問題でございますけども、本来的にはやっぱり教頭は公民館の仕事を担当する職務はないわけでございます。したがいまして、教頭は兼務書記をしない方がよろしいというのが私の考えでございます。したがいまして、今度専任書記がもし生まれたならば、これによってようやく本来の公民館の運営ができる、このように思っておりますので、最初申し上げましたとおりこの専任書記がきちんと定着をしていったならば、もう教頭は兼務書記をやらないというようにしていきたい、このように考えております。しかしながら、やはり学社連携という言葉がありますとおり、学校教育と社会教育がお互い連絡を保ちながら運営されていか

なきやなりませんので、教頭が兼務書記をやめたからといって学校と公民館が余り連絡なく運営されるということのないような、そういうようなことは十分配慮していきたい、このように思っております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 辻田議員がおっしゃいましたように、条例を何だ随分不備じゃないかというようなことで御指摘を受けましたけども、実際条例そのものの内容の訂正ではございませんで、ただ字句を、点とかそういうものを改めたのがあれでございますが、その辺は十分御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ただいまの御質問でございますが、要約いたしますといわゆるコミセンで使用できて城山ではだめではないかというようなことについて、これをどう考えているのかというようなことだろうと思うんですが、これは……失礼しました。城山で使えてコミセンではだめじゃないかということで、この辺をどう考えているのかという内容だろうと思いますが、これは先ほど市長の御答弁でありましたように、いわゆるより多くの方々にあそこの施設を利用していただくというのが根本にあるわけでございます。それで、先生とそれから弟子の関係でも、特定の流派の先生が非常に長い時期を——例えば一定の土曜日とか日曜日とか、そういうようなときにそういう先生方によって会場を確保されてしまいますと、ほかの方々が利用しようとしても、ああもうそれは予約がありますからという形になってしまって芳しくない。そういうことはやはり営利につながるんじゃないか、先生と弟子という月謝を納めて教えていただくという、そういうところからやはりそれは営利につながってくるということから、そういうものはできるだけやはりなくしていかなきゃいけない。極端なことを言いますと、その施設を借りて一つの教室になってしまうと。これは困るということで、それを憂いまして、やはり広く一般市民あるいはひいてはやはり市外の方々もここへ

来て、そしてお茶をたしなんでいただくという、そういう一時もあっていいんじゃないかということから、やはり広くそこを使用していただくということで特定の人に利用させない、こういうことでの配慮でやってあるわけでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 公民館のことについては、これはそういう方向で、ひとつ私もかねがねお願いしていたことが実現したわけでございますから非常に結構なことでございますので、一日も早く教育長さんのおっしゃるとおりひとつ教頭は教育に専念してもらいたいと。12月議会の飯田議員の質問にありましたように、今学校教育の問題が非常に過渡期にある中でもってやはりこれはもう教育に専念してもらおうということが必要でございますから、そういう方向でもってひとつぜひお願いいたしたいというふうに思います。社教は社教でもって独立してそれだけの予算措置をしたんですから、これはもう私たちも協力いたしますので、専任書記は速やかに配置をしてそれぞれの分野で独立して機能が高まるような活動をしていただきたいというふうに思います。

それから、この茶室の問題でございますけども、私しつこいようでございますけれども、これきちんとしておきたいとします。それで、これ2回目の質問ですからもう一回ぐらいしたいとしますけれども、ここでもって二つだけはっきりとさせておきたいとします。一つは — これ条例だからまたきちんとしておきたいんですよ、これ残りますから。それで、さっきの総務部長の答弁でございますけども、今回の問題も私もそのように — 字句が間違っているとは思っていません。訂正したんであって、それはそれでいいと思います。今回の条文も間違っていないと思います。しかし、訂正の必要のあるような条文をあえて最初から私議会で認めることないんじゃないか、こういうことなんです。訂正を認めるということは、城山の茶室の施設を公民館と同等に使うのかどうかということなんです。これをはっきりしてもらいたいんです、いいですか。私がさっき言っているように、コミセンの中に

ある茶室は公民館法という法律に規制されるから営利ということも入ってきている。しかし、これは若干お茶だとか花とかについては無理がある。しかしながら、館山の公民館長は非常に法律に厳しい人なんですから、それはわかるんだけど、法律は法律ですからと今貸していない。これ現実。それは私はそれでいいと思います、条例があるんだから、職務に専念しなけりゃいけないからいい。しかしながら、城山の茶室は公民館法の適用じゃありません。公園法の適用です。公園法の適用の中でもって、他の施設は興行も展示も出店も全部できるんですよ、こういう有料なものが、これできる。できる中でもって、ここでもってなぜあそこで公民館と同じような形でもって規制をしなきゃならないのかということ——公園法と同じような扱いでもって有料施設ということであれば、有料でもって営利、その他については特に規制しなくてもいいんじゃないか、公民館と同じものを当てはめなくてもいいんじゃないかと。根本的にはあれは公園施設ということでもって、公園施設の他のものと同じような扱いも有すべきじゃないか、こういうことを私は言っているわけでございます。その点について、何かあそこだけ公園の中にぼつんと公民館のような、そして公民館法の営利というそれはまた別な角度から非常に盲点であるところをそこへ持ってこなきゃいけない。あそこにはその盲点入れることない。茶室とか華道というのは盲点でございますから、営利云々ということでもって公民館法でもって規制するのは。したがって、今おっしゃっているように、茶道教室だとか、何かそういった授業料取ってやるために使うということについては何もここで、7条の3の5でもって市長が認めない場合にはこれはだめだということでもってそういうことじゃいかんということでもってやればいいんで、当然のことでもって、そのことによって初がまだとか、お茶会とか、そういうものができないと。そういうものできなくなれば、現実的には広く一般に茶道愛好家に開放すると言ってもそれはできませんよ、そんなことはほとんど。

それで、茶道教室持っている先生方というのはみんな自分のうちに——御存じあるかないかわかりません。市長さんは奥さんが多少やられているそうでございますから御存じだと思うんですけど、大体教授という免許をもらっ

で教えることができるようになる先生は、自分のうちに茶室を持つということが条件になっているんです。90%が茶室を持っています、教える先生は自分のうちに。そこで使っているんですよ、普通は。だけでも、入れかわり立ちかわり使っているけども、弟子が20人、30人いる場合には、初がまだとかいろんなお茶会とかやる場合にはその自分のうちに入り切れない。多くても10畳かそこら辺ぐらいの部屋でもって、あと小間という3畳とか2畳の部屋でもってやっているわけですから、そういう場合には大きい施設——大体旅館とかホテル、そういうところを使ってやっているわけでございますけど、ああいう茶室ができれば非常にいいんじゃないかと。そういうことを目的にして使いながらそういうものが営利云々でもって混同するということになってくれば、私はせっかくの市民一般に開放するということが開放にならないんじゃないかと。この条文をあえて私は入れることないということでございますので、その点についてちょっと考えが違ふようでございますけれども、そうしてもらいたい。

それからもう一つは、同じ社会体育施設でも社会教育施設の設置及び管理に関する条例、これについてはいろんな企業が企業の練習をするとか、それから剣道の道場の人たちが剣道場を練習に使うということについても、これは一向規制されていません。そういう面でもって、営利を目的ということはこの体育施設の中に入っていない。プールにも入っていない。企業の練習そのものもやる場合があります。実業団をして練習したこともあります。1週間ぐらいの夏季練習もやることもあります。こっちの方の社会体育施設の中については、一切この営利を目的とか云々というのありません。しかしながら、その企業なりそういった道場なり塾なり、そういうものはその練習なりそういうものに使っております。水泳でも同じです。なぜここでもってこの条文を、公民館法の中のそういったものをここへ持ってこなきゃならないかということ——特に社会教育施設については、備考の中で入場税法第2条1項に規定する催し物は別に料金を定めるということでもってむしろ積極的に、積極的にこういうことやるということについて、営利については結構だろうというふうに言っているぐらいでございますけれども、ここんところは

ちょっとやっぱり手違いなり錯覚でもって入れたんじゃないかと。4条の中の6項目へ追加して入れればいいし、またこの7条のところについては、制限乃至禁止するという中についてこの条文を2、3を入れるということについては、制限と禁止する中にこういう設置を入れるということ自体が条文的におかしいんじゃないかと。また、もう一項別の項を設けて禁止条項じゃないものにやはりしていくべきじゃないかというふうに思うんですけども、こちら辺についてかなり無理があるように思うんですけど、この点についての見解を聞かせていただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 御発言の中にもありましたように、7条の3の5号に前各号に掲げるもののほか市長が適当でないものと認めるときというような、それがあればむしろこういうものは必要じゃないんじゃないかというようなことで御質問があったわけでございますけども、やはりそれにゆだねてしまいますと担当に当たる職員がしからばどこまでということで非常に苦慮するわけでございます。できるものならば、ある程度はっきり条文の中でうたっておいた方が整理がしやすいというようなことからこの条項が入っておるわけでございます。営利を目的とするものについてはというようなことは先ほど何回もお話申し上げましたので、そういうことでとかく市長がやればいいんじゃないかよというようなことで御無理が言われると、私ども事務担当といたしましては非常に困るということで、そこでこういう条文が設けられておるということでございます。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 最後の質問になりますので、その点につきましてはこの公園法の第4条の中に行爲の制限という中でもって十分入っているんですよ、1項から第5項まであって。これをやっていると、営利ということ以外は全部この中で含まれてこの条文はいいんです。それから、別表の中のこの中にあえて有料施設ということでもって料金を入れれば、別表第10条というところのこれは都市公園使用料、都市公園占用料、この1項の中に有料施設使用料という項目をつけ足せばいいんです。こうやってあえて二つ

の附則をつくらなくてもこれは十分なわけです。そうすれば、公園という中でもって違和感のない一体性が出てきているわけです。そのことをなぜ私やんなかったかということです。提案されたから何としてもこれは守んなきゃいけないだろうということであろうし、私の方がどうもお茶の人たちのかかわりだとか実態は市の人よりも私の方がずっと知っているというか、理解しているからちょっとあれかもわかりませんから、その点については余り職員がちょっとメンツの立たないようなことはしたくないんですけれども、議員で出ているんですからそういう点についてははっきりしたようにしてもらいたい、安易に公民館法の条例をここへ持ってくればいいんじゃないかということでございますから。

そこでもって、第7条の利用の禁止または制限の中にこの条件をまた入れていくということでもって、もう二重にも三重にも条文的には無理して入れた。できちゃったからここ入れようということになったんだ、こういうことでもって、これでもってこれが無理であれば私は博物館と同じように別途の設置条例をつくって、そして博物館と同じあの使用状況でもってやるべきじゃないかと。その方がやはり私は親切丁寧だったと思います。博物館法も私は見ました。料金もちゃんと出ています。あれと同じに立派な茶室ですから独立させて、博物館と同じような管理と運用すれば、私はかえってその方が懇切丁寧じゃないかというふうに思うんですけども、その点について言うわけでございます。

そこでもう一つは、同じ営利を目的としないというのであって公園法の方の条文については、お茶の先生については市長が許可すれば使っていいと。しかし、公民館の利用法の方についてはこれはもうだめだと。同じ文句でもってだめといいというのが条例の中で解釈をしていくということは、これは市として余り適切じゃないと。これはここでもってそれはそうだと言ってもそうはいきません。条例というのは普遍的——それは市長もかわることもあるし、市の職員もかわることがあっても、これずっとそれは法律に基づいてだれが見ても同じように解釈しなきゃいけないんですから、ここで論議はそう答弁しましたからというわけにいきません。

したがいまして、同じ条例でもって同じ執行ができないということについて私は問題があるので、これは訂正する必要があるんじゃないかと思いますが、この点について再度お考えあるかどうかということと、それから確認しておきますけども、先ほど市長が答弁にありましたように、お茶会とか、それから定期的でない、不特定に催すものについては、これは利用させていきたい、こういうことであつたわけでございますけども、これはこういうことでもってよろしいですか、いいですか。お茶会等定期的じゃないそういうものについては使わせていく、こういう答弁しておったんですけど、これはこの条文の中でもってよろしいかどうか、この点についてははっきりと使えるか使えないか。はっきり言いますと、お茶会とか初がまとか、そういった定期的じゃない。1日のみで2日とか3日ということないです。大概ああいふのは1日で終わるものですけども、1日とか2日でもってそれ終わる普通の形のそういったものについては許可してくれるのかくれないのか、先ほど許可するというような旨の答弁がございましたけど、その点についてはこの条文の中でもって使えるのか使えないのか、はっきりさせていただきたい。

以上、2点について質問をいたしまして終わりたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） どうもちょっと質問の内容が私今よく理解できないんですが、いわゆる行為の制限と……

（「議長、内容がわからないで答弁されても困りますよ。きちんとしてください、議長」と  
呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 暫時休憩をします。

午前11時19分 休憩

午前11時32分 再開

◎議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長の不手際で4番目の質問をしたわけでございますけれども、3番目の質問の中でいまだ答弁漏れと思われるところがありますので、それを答弁させます。



経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 社会教育法に基づきます公民館の運用とそれからいわゆる城山公園とは設置目的が違いますので、同じような条文でありましても内容的には違っておるわけでございます。といいますのは、特に茶道等の関係で特定の茶道等は——公民館の方におきましては茶道教室として開かれてもいわゆる子弟と先生との間で行われるものについてはだめだというような制限があるわけでございますけども、これは城山の方では弾力的にそういうものについて別の季節的に行うものだとか、あるいは特定の、定期的なものではなくて特別な催し等によって行うものについては、公園の方ではできるといようなことになっておるわけでございます。

それから、もう一点の4条と7条の関係でございますが、4条につきましてはいわゆる使用者の制限を市長が許可するものでございまして、もう一点は7条の方につきましてはいわゆる市長が使用させるための制限であるということで、おのずから性質が違ふということで、これを一緒にすることは好ましくないといようなことで条文を分けてございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 以上で21番議員辻田 実君の質疑を終了いたします。

以上で通告者による質疑を終わりますけれども、通告をしない議員で御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（林 豊君） ただいま議題となっております議案第9号乃至議案第20号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議案の上程

◎議長（林 豊君） 日程第3、議案第21号乃至議案第24号の各議案を一括して議題といたします。

## 質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第21号平成元年度館山市一般会計補正予算（第6号）に関しまして御質問をいたします。私の質問は議案書に沿って進めていきたいと思います。

17ページでございます。総務費中、一般管理費ということで、負担金補助及び交付金の中で南部地域広域水道企業団設立促進協議会出張職員負担金 150万 4,000円ということで支出が計上されておりますけれども、これに関しでお尋ねをいたします。県南部広域水道企業団につきましては、地元の市町村なり水道企業体ばかりではなく、その事業は千葉県の立場にとりましても大変重要な事業だというふうに思います。相当な財政負担も考えられますし、この事業における県の役割と責任は大変大きなものがあると思います。この事業における県の責任と役割はどのようになっておりますか、御説明をいただきたいと思います。また、企業団には千葉県自体の参加は予定されておりますかどうかですか。

次に、22ページであります。予防費という中で各種検診委託料 709万 6,000円の減額補正でありますけれども、特にがん検診で 543万円もの減額であります。予定の見込みを大幅に下回った理由は何でありましょうか、御説明をいただきたいと思うのであります。また、最近は大腸がんが大変ふえてきているというふうに聞いております。早期発見がやはり決定的に重要であります。既に安房郡では富浦町が集団検診を実施し、大腸がんの早期発見をしておるわけですが、検診事業の受け入れ体制などの問題も現状ではあるようではあります、やはりこれは早期にやっていかなければならない事業ではないか思うのであります、いかがお考えでありましょうか。

次に、同じく22ページであります、し尿処理費ということで 930万円の

減額補正が計上されております。汚泥の焼却燃料費で 550 万円、電気使用料で 380 万円がそれぞれ節約されるということだと思います。焼却前の状態で農地還元がされ、燃料費が大幅に節約された、引き続き農地還元が安定的に実施できるかどうかを見ていきたいと 9 月議会では御答弁されているわけでありまして、今年度も農地還元ができたための焼却費が節約されたものと思います。この減額補正の理由について御説明をいただきたいと思います。また、この結果し尿処理費用のコスト、これらの見込みは幾らになりましようか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、24 ページであります。観光費中に道路環境整備工事負担金ということで 2,750 万円計上されておるわけであります。説明資料の 41 ページによりますと、県道南安房公園線の道路美化事業増に伴う負担金の増となっております。いわゆる県単事業であれば受益の限度において市町村に負担金を求めることはできることになっておりますが、本来市町村負担の軽減に県は努めるべきであります。美化事業の実施主体は県だと思うのですが、それに対する地元負担ということだということで受益の限度において負担するということになります、どういう基準でこの負担が決められているのでしょうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、29 ページであります。財政調整基金費という中で 3 億 961 万 9,000 円計上しておるわけですが、利息分を除きますと 3 億円を積み立てるということになっておるわけであります。本年度の決算見込みについて現時点ではどのようになると見込んでおりますか、御説明をいただきたいと思います。

次に、前へ戻りまして 13 ページであります。国庫補助金、この中で衛生費国庫補助金ということで合併処理浄化槽設置事業補助金 226 万 7,000 円の減額、そしてまた 14 ページに県の衛生費補助金で合併処理浄化槽設置事業補助金同じく 226 万 7,000 円それぞれ減額の補正がされております。国と県合わせて 453 万 4,000 円、この補助金がつかないということですが、この国及び県から補助をもらって設置した浄化槽は本年度何台でありますか。またこの間 — この 1 年に合併浄化槽以外の単独浄化槽、これが何台設置され

ておるのか。大変合併浄化槽の普及が思ったほど進まないという問題を感じておるわけでありますが、この合併型を普及する上での問題点はどのような点にあるというふうに分析をされておるのか、お聞かせをいただきたいと思えます。

次に、25ページであります。行ったり来たりして大変申しわけありませんが、私道舗装等補助金ということで72万 3,000円の減額補正が計上されているわけでありますが、今回の減額補正の理由は何でありましょうか。私道舗装については、規定では10戸以上の規模ということになっておるわけですが、これ以下の私道でもこの補助の希望は大変多いと思うのでありますが、この規定を緩和する考えはないでありましょうか。

次に、32ページであります。給料及び職員手当の増減額の明細で、時間外勤務手当の増減分ということで744万 3,000円計上されているわけですが、事務事業量の変動による増減分というふうに説明がされております。各課ごとに見てみますと、ほとんどが増額補正がされておるわけであります。夜9時を過ぎましても、市役所の前を通りますと明かりがついているということは何度か私自身も目にしていまいりました。市職員の時間外勤務が大変ふえているのではないかと危惧を感じるんですが、この点についていかかでありましょうか。

また、それとの関係で市職員には年次有給休暇が付与されているわけですが、昨今リゾートの中で有給休暇の消化が大変日本は少ないということが大きな問題点だということとされているわけであります。市職員の年次有給休暇の取得は平均何日になっておるのか、お聞かせをいただきたいと思えます。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、南部広域水道企業団設立促進協議会負担金 150万 4,000円についての関連しての御質問でございますが、南部の水道用水供給事業に対して県

の補助が見込めるかという御質問でございますが、現在のところ具体的な話は伺っておりませんが、県では昨年9月県議会におきまして南部の水道用水供給事業に対し支援、協力する旨の答弁がなされておりますので、今後事業計画等を策定した段階で助成等を要望してまいりたいと考えております。なお、県はこの企業団には参加はいたしません。

次に、検診事業で受診減による減額についての御質問でございますが、減額補正の理由といたしましてはまず結核検診及び肺がんの二重読影検診につきましては、業態者検診を昨年度まで館山保健所で実施しておりましたが、本年度からは住民検診として市町村で実施することになりましたので、その分を計上いたしました。受診者が少なかったことによるものでございます。また、婦人科検診、乳がん検診につきましては、昨年度は受診率向上のため30歳以上の女性に対し個人通知をいたしました。本年度は個人通知をせず従来どおり広報、回覧、地方紙によるPRをいたしました。受診者が大幅に減少したことによるものでございます。

次に、今後の大腸がん検診の見通しにつきましては、安房医師会病院と協議をいたしまして、その御協力が得られるならば実施してまいりたいと考えております。

次に、し尿処理事業の930万円の減額補正について、その減額の理由は何かという御質問でございますが、脱水しました汚泥を焼却せずこの1月下旬まで特殊肥料として農地に還元したため、汚泥焼却用燃料費の一部が節減されたこと、それに伴い汚泥焼却炉を使用しなかったことによる電気使用料の減及び反応槽へし尿等を送る循環ラインの整備により冷却装置の稼働時間が少なくなったため、電気使用料の減等によるものでございます。

また、本年度のし尿処理費用の見込みは幾らかということでございますが、人件費を含む1キロリットル当たりコストは5,002円、人件費を除いた1キロリットル当たりのコストは3,444円になる見込みでございます。

次に、道路環境整備工事の内容及び負担金の負担割合についての御質問でございますが、当初県道南安房公園線の菜の花等の植栽工事として総事業費1,200万円で負担金400万円を計上いたしました。県の事業拡充に伴い総

事業費 9,450万円となり、負担総額が 3,150万円となったため、2,750万円の増額をお願いしようとするものでございます。事業内容につきましては、県道南安房公園線道路美化調査委託及び延長 1.2キロメートルの花壇整備工事等でございます。負担割合につきましては、地方財政法第27条の規定により受益者負担として総事業費の3分の1を市が負担するものでございます。

次に、平成元年度予算の決算見込みについての御質問でございますが、現時点におきましては市税徴収や地方譲与税、さらに国の補正予算に伴う地方交付税の動向等極めて流動的でございますが、繰り越し事業や老人保健会計繰出金などを除く実質的な決算剰余金は、3月補正後においておよそ2億8,000万円程度は見込めるものと考えております。

次に、年間の浄化槽設置台数の御質問でございますが、昭和63年度におきまして届け出は 615基で、そのうち合併処理浄化槽28基、平成元年度は現時点で 480基で、そのうち合併処理浄化槽14基となっております。

次に、合併処理浄化槽の普及の上で問題は何かという御質問でございますが、合併処理浄化槽は単独処理浄化槽に比べ槽本体が大きいいため、設置面積を広く必要とするため、敷地要件等でできない場合がございます。

次に、私道舗装補助金減額72万 3,000円についての御質問でございますが、これは上野原地区美ノ輪団地内の私道舗装工事における工事入札残によるものでございます。また、助成金の交付対象要件のうち、10戸以上の家屋連檐地域の規定につきましては戸数の緩和は、当分の間考えておりません。

次に、時間外勤務手当についての御質問でございますが、時間外勤務手当につきましては総体的にふえておりますが、内容的に見ますと各課のその年の事業量等によりまして時間外勤務の増減が出てまいります。例えば、63年度では緊急の災害対策あるいは臨時福祉給付金事務などがあり、また元年度には市制50周年に伴うイベントなどが数多く催され、時間外勤務がふえたということでございます。いずれにいたしましても、今後も計画的に事務事業を進めるよう徹底してまいります。

次に、市職員の年次有給休暇の取得でございますが、元年の実績は平均 8.7日となっております。ちなみに、過去にさかのぼってみましても、おおむ

ね8日から10日前後の実績となっております。

以上、答弁終わります。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） それでは、再質問をさせていただきます。

し尿処理事業の関係でございますけれども、人件費を含まないのが3,444円ということでコストが示されましたが、9月の議会でも前年度——63年度が3,222円だったと思いますが、そういうことで約2,000万ぐらい、キロ当たり4,000円の処理費用を取っているものですから、差益が出てきたという点を指摘をしてきたわけでありまして、一方保全公社の決算が今年度の予算では1,700万ほど大体赤字になるという当初予算組んでおるわけで、見込み的には予算どおり進んでいるのかなという気もするんですが、保全公社の財政問題で、これはし尿処理費の差益分についてはそういう問題含めて財政的な助成を考えるべきじゃないかという質疑について、市長も今後の検討を要する課題だという御答弁がされていたんですが、この時点——半年前から現時点で保全公社の経営状況に対してこうしたし尿処理費の差益を含めまして財政措置について、財政援助についてお考えはどうかという点です。

それから、道路環境整備工事負担金の関係でありますけれども、当初1,200万円の予定であったものが9,450万ですか、非常に県の花壇をつくったりする南安房公園線の工事計画が大幅に変わったということでもありますけれども、負担は3分の1で変わらないということです。この辺のことなんですが、県道の負担について地方財政法27条でこれについては規定がされておるんだというんでありますけれども、公共事業に対しては市町村に負担をさせてはならない、これは27条の2項の中でそういうふうに規定がされておるわけです。それとの関係で、今回のこの事業は県の公共事業として行われたものではないというふうに理解すべきものなのか、また県の公共事業として行われる道路整備、あるいは港湾整備、こういうものに関しても県からの負担が求められているけれども、これは27条の2項の規定からいって本来問題のある出費ではないか、市が本来負担をしてはならない出費なんではないかなという点を思うんですが、この辺についてどのように考えておりますか。

最後に、時間外勤務手当の関係で年休の取得が 8.7日ということで、各民間のいわゆる公表されている数字でも大体 8 日前後の数字が出ていて、最近ではゆゆしきことにだんだん年次有給休暇の取得がここ数年減ってくるという全くリゾートとは正反対の事態が出ているわけで、こういう状況で市のあれは 8.7日という数自身は一般的な数字かなという気もするんですが、他市との状況、こういう点から見ますとこの数字についてはどのように評価されるのか。

そしてまた、館山市の職員が年次有給休暇の取得が — 付与されている日数の半分も休んでいないということになるわけですが、こういう点については実態を見ますと若い人は割ととるけれども、年配になるに従ってなかなかとらないというような傾向がどこでも指摘されているのでありますけれども、こういう年次有給休暇はやはり市長さん初めトップの方から積極的にとるというようなことを含めてやはり有給休暇の取得率を高めていく、こういうようなことについてお考えはどうかという点お聞かせいただきたいと思うんです。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） まず、第 1 点目の保全公社への財政措置ということでございますが、現時点で保全公社の元年度決算見込みを算出しますと、単年度で 1,015 万ばかりの赤字、累積が 479 万ありますんで、1,494 万ほどの赤字が見込まれます。また、2 年度の予算の中で現時点で検討しますと、単年度で 2,000 万ほどの赤字が見込まれるわけでございますが、こういったことから平成 2 年度につきまして投入料でキロリットル当たり 500 円程度の減免を今考えているところでございます。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 道路環境整備の工事負担金関係でございますけれども、これにつきましてはいわゆる県単事業として実施したものでございます。

それから、港湾の関係でございますが、港湾につきましてはいわゆる大規



模な整備、あるいは広域にわたる事業、こういったものについては市町村に対して負担させてはならないというような規定があるわけですが、これらに基づかないいわゆる小さい整備というようなことで、県単事業については地財法に基づきます負担が課せられておるということでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 神田議員の他市の状況等はどうかということでございますが、28市平均しますと大体13日ぐらいでございます。ちなみにいいますと、小さなところとか何かというのは割と休暇が大体館山と同じぐらいのような感じでございます。

また、特にトップの方からということでございますが、大変あれですが、休暇等は健康管理の面からとっていただくようにはしておりますので、ひとつ十分やっていきたいと思っています。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） よろしゅうございますか。

◎11番（神田守隆君） 終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午後零時02分 休憩

午後1時05分 再開

◎議長（林 豊君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開きます。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 通告いたしました5点について御質問を申し上げたいと思います。

最初に、議案の22ページ、予防費について御質問申し上げたいと思います。この点につきましては、全く同じ質問を神田議員の方からされておりますので、その内容については省略いたします。1点だけ伺いたいと思います。先

ほどの質疑の中でもって気がついたこととございますけれども、がん検診の受診率が落ちているということはどういうことなのか。先ほどの答弁でございますと、乳がんとか婦人がん検診については広報等でしたのみであったので受診率が下がった、こういうようなことを言われておりましたけれども、この点について私はお伺いしたいわけでございます。

第1点は、がんそのものは私は減っていないんじゃないかと。非常に今がんの恐怖なりがんの問題が、高齢化社会だけに大問題になっているんじゃないかというように思うわけでございます。これは減っているということは病人が減っているということじゃなくて、これは検診ですから検診の方法に問題があるんじゃないかと。ですから、病院なりやる場所、そしてがん検診を受けてもらいたいという宣伝、そういうものが徹底されればがんの検診率というのはもっと上がるだろう、減るということはあるまいだろうと。私医者の人にこれ聞きました。がんの予防というのはどういうことがあるのかと言ったら、いやこれは毎年定期検診を受けることですよ、それ以外にありませんと。毎年受ければ相当の死亡率なりそういうものは減りますよ、みんな手おくれなんですよと。本当はもう50過ぎたら毎年これ1回ずつやっていけばこのがんの問題が相当できますよということで、それができないところに問題があるということを聞いておまして、私そうじゃないかというふうに思いまして、したがって50を過ぎましてから毎年このがん検診はやっております。総合検診でやっていまして、大した命じゃありませんけれども、大事にしようと思ってやっているんですけれども、受診率が下がるということは治療じゃありませんから、そういう点について不十分な点があったんじゃないかというふうに思うんですけれども、その点について御質問をいたしたいと思います。

2番目の問題、23ページでございます。ここの――農地費の中の沼地区の団体営土地改良総合整備事業補助金 655万 2,000円が減額になっております。当初予算では市が 1,087万 5,000円を負担し、地元が 112万 5,000円を負担するという割合になっておったわけでございますけれども、今回の補正を見ますと市の負担が 432万 3,000円に減少し、そして減少した分だけ地元が 7

20万 5,000円に膨れ上がっているわけでございます。すなわち市の負担の 600万円が地元負担に変わったということになっているわけでございますけれども、どうして当初予算で組んだこうした割合が、議決された予算が組みかえなきゃならないか、その理由について御説明をいただきたいと。この点につきましては、地元の土地改良組合できたわけでございますから、その話し合いを十分されたのかどうなのか、その話し合いのされた経過、どの程度まだ ― 組合長に電話で話したよとか、そういうことなのか、それとも行って組合の役員の何人ぐらいと細かく話したとか、どこで話したとか、その程度の話し合いの内容を明らかにしてもらいたいと。今までだと、地元の了解とったということになりますと、組合長なり会員の人に電話でやっていて何もわからなかったけど、それが了解だったなんていうようなことがたまにありますから、その点については地元のだれといつごろどのぐらいの時間をしてやったのか、電話でやったのかどうなのか、この点についての状況をちょっと申しわけありませんけれども、そう遠くないつい最近のことでございますから、それをひとつ明らかにしていただきたい。

3番目の質問に移ります。24ページでございます。24ページの24節国民宿舍事業の特別会計の出資金についてお尋ねをいたしたいと思うわけでございます。現時点でもって貸付金が1億円あったわけでございますけれども、この貸付金を返済して ― これ一般収入の中に入っていますから、補正でもって貸付金返還金1億円が入っていますから、これは返してもらったということですけど、同時に支出の中でもって出資金として同じ額の1億円が支出されていると。その説明によりますと、経営の健全化が図られるのでということですから、この貸出金とその出資金に切りかえることによってどのように経営の健全化になるのか、この点を教えていただきたい。

2番目に、その貸付金をそのまま出資金に肩がわりすることが私は余りいいとは思われないんです。私この貸付金を出すときに経済委員会でおりました。私は全面的に賛成しました。一部反対した人いました。赤字が出たからといってすぐぼんぼん、ぼんぼん埋めていいのか、この貸付金でもって改善できるのか、こういう質問もありまして、それはできるということで

もってやったわけですから、その2年か3年後には経営が健全化されて貸付金というのは返ってくるものだとは思っておった。2年ほど前だと思います、1年前ですか。建設委員会ですか、1年前にそういうことが行われた。それで、私はそのことは非常にいいと思った。しかしながら、今日になってみますと、貸した金は一銭も返ってこないでもって全部出資金に肩がわりしてくれというのはちょっと誠意がないんじゃないかと。その借りた金については、全部返せないけども半分は返しますよ、1割は返しますよ、1億の1,000万返しますと。あと、返せないから悪いけど出資金にしてくれというのが普通じゃありませんか。これ議会を通っているんです。建設委員会の中で慎重審議したんです。そして、貸付金やって健全化する、返せるということでもって貸したんですから、それが返せなくなって出資金でもって全部肩がわりしてくれ、1億入れて1億出す、これではちょっと誠意がないし、議会の我々もそういうことでもって健全化のために1億貸付金やろうということで全面的に賛成していながらそれが生きないと。出資金に変えなきゃならないということについて、私誠意の問題としてあるんじゃないかと。議員としては、こういうような形でもって扱われると何とも言えないわびしい気持ちになるわけです。1,000万でもいいですよ、2,000万でも元金を返してください。それで、8,000万なら8,000万だけ出資してください、これがやっぱりけじめというものじゃないかと思うんですけども、このところの見解を明らかにしていただきたいというように思うわけでございます。

4番目には――25ページに移ります。25ページの19節負担金の中でもって、道路新設改良費中、負担金579万6,000円の減額についてでございますけども、予算では県道の改良工事負担金は1,360万円が組まれておったわけでございますが、これが579万4,000円に減額になったわけでございますから、したがって予算が半分になったわけでございますけども、この予算が半分になったということはどういうことなのか、そして事業はどのようになっているのか、予定どおりのものがされているのか、半分しかできなかったのか、この点についてお伺いをいたしたい。

次に、特にこの予算は県道であるわけでございますから、県も議会でも

って打ち合わせしまして、そして同じ県の負担金、市の負担金でもって話し合いがついて、そして予算が組まれて、県の方もこの予算は議決されておったというように私は思うわけでございます。それがなぜ県の方もこのように途中でもって減額しなきゃならないという事情があったのか。千葉県の方財政というのはかなりいいようでございますけれども、それがこのように半分削られちゃうというふうなこと、こういうことはちょっと考えられないんですけども、何かそこには事情があったのかどうか、この点について説明をしていただきたいと思います。

それから、5番目の質問に移ります。25ページから26ページにかけてでございますけれども、その都市計画費中、西口区の区画整理事業の減額についてでございます。その第1点は、15節の沼地地盤改良工事費 3,200万円の未執行であったわけでございますけれども、この沼地改良というのはどうして未執行になったのか。裁判の問題もあったあの土地かと思えますけれども、その裁判とかそういうような問題があったのでなのかどうなのか、そこら辺についてこの未執行の理由について教えていただきたいと思えます。

その次が17節、これ26ページになりますけれども、市街地整備用地の購入費 3,337万円の減額について、当初予算では 7,580万円があったわけですが、半分の執行しかできなかった、こういうことでございますけれども、この点については購入が不調に終わったということでございますけれども、どうして不調に終わったのか、その事情についてお伺いをしたい。

それから、3番目には22節、その地権者との交渉による不調によりまして 1,297万 2,000円の減額になっているわけでございます。この交渉が不調に終わったということはどういうことなのか。この予算を見てみますと、西口区画整理事業の予算のほとんどの基本的なものが予算の半分しか執行されておらないということは、これが六、七年でもって完成するというのがやっぱり10年ぐらいかかっちゃうという結果になるんじゃないかと。半分も未達成というのは、初年度でもって半分ということについては、私はかなり問題があるんじゃないか、困難が予想以上のものがあるんじゃないかというように思うんですけども、その困難なりそういう障害があるとすれば我々も協力

してそれを取り除いていかなきゃいけない。そして、予定どおりにやっぱり西口の再配置をして館山市のまちの活性化を図らなきゃならないというわけでございますけれども、こういう予算が半分しか出ないということになってくると何かそこにはそのような事情があるんじゃないか、それをやっぱり我々にも明らかにしてもらいたいと。ただ、予算の未執行でございます、話し合いが不調に終わりましたからだけでもって、はいそうですかということでもって目標の平成8年には完成できないと。それも毎年、毎年半分しか執行できない、こういうようなことでは困ると。特に、ことは予算の第1年度であるわけでございますから、これは半分しか執行できないということについてのその状況を明らかにしてもらいたい。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、第4款の予防費についてでございますが、がん検診につきましては神田議員にお答えいたしましたとおりでございます、婦人科検診、乳がん検診の受診者が見込みより減少したものでございますが、神田議員にお答えいたしましたとおり、63年度は30歳以上の女性全部に個別に通知を出したわけでございます。平成元年度は、広報とか、一般紙とか、そういうことで案内をいたしました結果、受診者が少なかった、そういうことでございます。なお、平成2年度は個人別に通知を出したい、そう考えております。

次に、ほ場整備事業でございますが、当初の工事計画では事業費 3,000万円で沼側から施工を予定し、その内訳といたしましては幹線配水路工事 2,550万円、換地費等 450万円で、その負担割合につきましては国45%、県15%、市15%、地元25%となっております。この幹線配水路につきましては公共性が強いことから、地元負担分を全額市が負担するというところでございました。その後地元と協議をいたしました結果、事業内容を変更し、宮城側から施工することとなり、その内訳といたしまして整地工事 2,432万円、換地費等 450万円の合わせて 2,882万円となり、その結果市の負担額が 655万 2,000円

の減となり、地元負担金につきましては 608万円の増となったものでございます。

次に、国民宿舍出資金についての御質問でございますが、昭和62年度に企業債繰り上げ償還のために国民宿舍事業会計へ貸し付けした1億円を貸付金から出資金に振りかえまして金利負担を軽くし、また構造的な赤字体質を改善いたしまして国民宿舍事業運営の健全化を図ろうとするものでございます。

次に、道路新設改良事業についてでございますが、この事業につきましては県の行う土木、その他の建設工事に対し、その経費の一部を市町村が負担するものでございます。まず、道路排水整備事業の内容でございますが、県道和田丸山館山線外3線の排水整備でございまして、当初の計画どおり工事が実施されております。

次に、県単局部改良事業でございますが、この事業につきましては県道富津館山線の北条地内における道路拡幅工事でございますが、用地買収等に相当の期間を要し、大半の工事が次年度への継続事業として見送られたための減でございます。

また、県単道路改良事業でございますが、事業といたしましては県道館山大貫千倉線における古茂口地内の山斜面ののり面吹きつけ工事の計画でございましたが、県において予算の確保ができなかったための減でございます。

次に、西口土地区画整理事業についての御質問でございますが、沼地の地盤改良工事の減額につきましては、工事を行うことについて権利者の同意が得られなかったため減額をしようとするものでございます。

また、市街地整備用地購入費 3,337万円及び地上物件等補償費 1,297万 2,000円の減額理由でございますが、区画整理事業の施行を機会に地区外への転出を希望する権利者と話し合いを行っていたところでございますが、権利者の希望する代替地がなかったという理由で話し合いが不調となり、そのため市街地整備用地購入費及びこれに伴う建造物等移転補償のための地上物件等補償費を減額しようとするものでございます。

以上、答弁終わります。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 答弁の内容につきましては、この議案説明書とほとんど変わらなくて、その点がそれではわからないからもうちょっと突っ込んで質問したわけでございますけれども、ちょっと質問の繰り返しになりますけれども、それ以上の深めた点について再度御答弁をいただきたいと思うわけでございます。

1の予防費でございますけれども、がん検診についてはここで一番私が質問しているのは、がんの検診する検診方法、施設、そういう点についてやはり当初予算にもくろんだものについてやっぱり甘さがあったんじゃないか、甘さがあったから目的どおりにいかなかったんじゃないかと。したがって、来年は前年度と同じように30歳以上の女性には全部手紙を出すからこれでいいだろう、ある程度回復できるだろう、こういうこと、これは来年のことであって、その場合にやっぱり今回こうなった実績の中でもって検診方法の医療機関、それから検診方法に対する手紙だけの問題だったのか、その点についてはしつこいようでございますけれども、そういった検診をさせるということ——もう治療云々ということじゃなくて、これは検診ですから、検診は100%やった方がいい、やるべきだということが医者で言っているわけです。そうでないともうがんは克服できないということでございますから、それはもう市が意欲的にやると。予算組むことについて私は全面的に賛成なんですから、組んだ予算が大幅に執行できない、検診者がいませんでした、これで済む問題じゃないんじゃないか、健康都市宣言している市ですから。その点について、そこら辺の反省なりどのようにされたのか明らかにしてもらいたい。

それから、沼の問題については、この点について一つだけ。地元と交渉したということですが、当初予算で組んで額だけ合うということはあるんですか、一つは。負担割合が変わったということについてはいいんですけど、場所が変わったからといって総事業費を同じまんまでもってこのように簡単にいくかということとはちょっと考えられないんですけれども、負担割合が変わったからということで——変わることに 대해서는そう地元はなかなか同意しないんじゃないかというふうに思うんですけれども、議会でもって承



認されてああ結構だろうということをやったものが途中でもって変わるとい  
うことはどうかと。それについてはいつどういう人と電話でやったのか、  
それとも直接話し合いをやって役員と具体的にこれこれこういうことでやっ  
たのか、それについての答弁がありませんので、それひとつ繰り返しになり  
ますけども、そこが肝心なので、そこんところをはっきりとひとつお  
答えしていただきたい。

それから、3番目の国民宿舎の出資金ですけど、今の答弁では私答弁じゃ  
ないと思いますよ、それは。ちょっともう少し質問者の立場なり議員の立場  
に立っていただきたいと思います。私があれだけ具体的に細かく質問してい  
るんですから、ちゃんと聞いていただきたいと思うんです。というのは、出  
資金であっても借入金であっても1億円には変わりはないでしょうということ  
です。それでもって、これが出資金になれば経営の健全化ができるという  
金には——1億円は1億円です。銀行行けば同じ金やってくれるんです。去  
年の議会で、健全化を図るので、もって借入金1億円貸してくれ、健全化を図  
りますということをやったわけです。それが、今度はまた健全化を図るので  
もって、その金はもう借金していたんじゃぐあい悪いから同じ額を元金も一  
銭も返さないでそれで今度出資金に変えてくれと。出資金になれば借入金と  
はちょっと内容が違いますが、運用する金の1億円については同じなんです。  
だからといってこれをやった、そういう問題じゃないでしょうと。これ議会  
でもって——じゃ最初からそれだったら出資金でもって提案すればいいです。  
1年たたないうちに、借入金をすっぽり返してもらって元金も一銭も返さな  
い。何のために審議して——経営の健全化を図りますと、1億円の借入金や  
ってやれば必ず何年か先にはこれ健全化します、その時点には返しますかと  
言ったら返しますと言って答弁したじゃありませんか。1年前ですよ、建設  
委員会の中で。

それで、1年たってきたのが、今度は返してはくれた。返してはくれたけ  
ども、それでもって今度はイコールで1億円出資金でもってやってくれ、こ  
れツーパーじゃありませんか。そうすると、1億円が出資金であるのと借入  
金であるのもって経営にはどれだけ金でもって違うか、これは大変な問題

なんです。そこら辺を私はどっちでも同じだということでもっていいと思いますが、議会の中でもって慎重審議して借入金でやりますと言ったら、元金のやっぱり 1,000万でも 2,000万でも返してもらって、それから出資金に変えるなんかしてけじめをつけなければ、議会なんかあってもなくてもいいようなものじゃありませんか。出せばそのとおりでんどん変わっていったらうと。はい賛成ですと言って——やると言ったものやってもらいたいと。そこには少しでもけじめをつけてもらわなければ、我々としても何のために慎重論議しているかわからないと。この点については、その点を聞きたいんです。経営の健全化になるのはわかっているんです。何で借入金でできなくて出資金ならできるか、こういう質問ですよ、私の方今。同じようなことを1年前にやってもらう——これ1年しかたっていないんです。けじめつけてもらいたいんです。そこら辺のところは申しわけないとか何とかいろんな形あるでしょう。そう簡単なものじゃありません。議会だってこれはそういう面についてやっぱり——市長と議会というのは議場の中では対等ですから、対等でもってやってもらわなきゃいけないんでもって、それは我々議員というのは市長の言いなりになるというわけにはまいりませんでもって、ここじゃやっぱりそれはもう対等の立場でもってきちんとけじめはつけてもらわなきゃならぬわけでございまして、この点について伺っているわけでございますので、そういう形からひとつ我々に納得のできる御答弁をいただきたい。

それから、道路の新設については、これは県の問題でございますので、県の方で確保できなかったということでございますから、この点については省略します。

それから、5番目の問題でございますけれども、これ総体としてはということであろうと思いますけれども、初年度のこういった実施事業、組合ができて向こうへ事務所を移して行って、これが予算がほぼ半分しか執行できないということについてはどうなのか、今年度は特にこういう当初予算どおりのものができなかったのか。来年になるとなお厳しいんじゃないかというふうに思われるわけでございまして、この補正予算の中でもってこれきちんとしておかなければ一般予算の中にもまた新年度のものが出てくるわけでご

ざいまして、そこら辺について、はいいいよというわけにいきませんで、こ  
こでもってきちんとしてもらいたいわけでございますけれども、これはや  
はり市が思っていた以上に困難性があったのかどうなのか。

それから、1番目の問題でもって沼地の土地改良の未執行という部分でこ  
ざいますけども、これについては係争地の土地なのかどうなのか、この点に  
ついてお伺いします。

以上、ひとつ御答弁お願いします。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 1点目のがん検診についてでございますが、検  
診方法、検診場所等に問題があったんじゃないのかということでございます  
が、この検診につきましては安房医師会病院と常に連絡を密にとっておりま  
して、そして実施しているわけでございますが、検診方法は安房11市町村同  
一步調で行っているわけございまして、胃の検診車等も2台から3台にふ  
やすなど改善すべき点は改善してきているわけでございます。

それで、この減ったということについての反省はないのかということでご  
ざいます。先ほど市長からも御答弁申し上げましたように63年度は個別通  
知を出したと。それで、平成元年度はもう一遍出したんで、もうやはり自分  
の健康は自分で守るということから、広報等あるいは回覧等の通知でみんな  
承知して自主的に当然受診していただけるということから個別通知は出さな  
かったわけでございますが、それがやはり期待したとおりにはありませんで  
受診率が大幅に減ったということでございます。やはりこれは定着する  
までは個別通知が必要だということで、2年度は予算でその分もお願いして  
あるわけでございます。そういうことで、今後検診率の向上に一層の努力を  
してまいりたいと考えております。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ほ場整備事業の関係でございますけども、地元  
とどのような話し合いがなされたかということでございますが、これにつ  
きましては役員20人、それと県の土地改良事務所、それから市と三者で協議を  
いたしましてこの変更の計画を検討していただいたわけでございます。話し

合いの回数は2回でございます。また、今回延期になりました事業につきましては、次年度以降で同じような負担割合を持って実施するという事で予定はされております。

それから、鳩山荘の經理の関係でございますが、これにつきまして一応鳩山荘も現在なかなか努力はしているものの、今までの借入金に対しましてなかなか返していけないというような状況下のもとに、いわゆる借入金で借りておりますとそれ相応の利息を支払うというようなことになっております。そういうようなことで、資本に繰り入れていただけますならばさらに健全財政がとれるというようなことから今回お願いしようとするものでございます。

それから、西口地区の関係でございますけども、これにつきましては係争中のものではないかということでございましたが、それではございませんで、一地権者からいわゆる換地先が決まらない状況の中で埋め立てをオーケーするわけにはいかないということで、もう少し事業が進展した段階で協議していただきたい、こういうようなことになりましたものですから、今回は区分をしてもやらないで、区分をしてやりましてもこれはいわゆる割高工事になるというような関係から全部を見送ったということでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） おおむね質問した事項についてはあれしましたけど、常任委員会もあることでございますから、以上をもって終わりたいと思います。

◎議長（林 豊君） 以上で21番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者に質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はありますか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（林 豊君） ただいま議題となっております議案第21号乃至議案第24号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 請願書の上程

◎議長（林 豊君） 日程第4、請願第25号及び請願第26号の各請願を一括して議題といたします。

#### 委員会付託

◎議長（林 豊君） ただいま議題となりました各請願は、2月27日議会運営協議会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

#### 延 会 午後1時38分

◎議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明13日は議案調査のため休会、次会は3月14日午前10時開会とし、その議事は平成2年度各会計予算の審議といたします。

#### ◎本日の会議に付した事件

1 議案第8号乃至議案第24号

1 請願第25号及び請願第26号